

『哲學字彙』について

1. はじめに

『哲學字彙』が明治初期の国語資料、とくに訳語研究の資料として重要な文献であることは指摘・紹介されているが、本書についての研究は、森岡健二編著『近代語の成立 明治期語彙編』（明治書院・昭和44）と永嶋大典著『蘭和英和辞書発達史』（講談社・昭和45）に、その訳語について論じられているだけである。そこで、今後の訳語研究のために、本書の書誌的な面について、明らかにしておきたいと思う。

2. 編者

本書は奥付がなく、扉にも編者名がなく、「緒言」の終りに「明治十四年四月 文学士井上哲次郎識」とあることから、編者は井上哲次郎とみられている。しかし、「緒言」では、

此書據^レ英人弗列^リ氏^ノ哲學字典^ニ而起、稿該書不^レ多載^ニ近世之字、因與^ニ文學士和田垣謙三[、]文學士國府寺新作[、]并有賀長雄等[、]徧搜^ニ索諸書[、]所^レ增加^ニ甚多[、]

とあり、和田垣謙三、國府寺新作、有賀長雄等の名がみえる。また、明治十七年五月再版の『^{改訂}哲學字彙』では、初版の緒言とともに有賀長雄の「緒言」があり、

哲學字彙余等同窓所^レ撰、而文學士井上君之力居^ニ多[、]東京大學印行一閱年而印本全盡矣、爾來哲學日盛非^レ復昔日之比、於是與^ニ井上君謀[、]正^ニ誤謬[、]補^ニ不足[、]經^ニ大學允准[、]而再上^ニ梓[、]和田垣[、]國府寺[、]文學士赴^ニ於海外[、]尋井上君亦有^ニ獨逸之行[、]故至^ニ改訂印刷之業[、]長雄專任^ニ其實[、]と記されている。そこで、「余等同窓所^レ撰」とあるように、井上、和田垣、

国府寺，有賀の同窓四名が協力し，その中心人物が井上哲次郎であったというべきであろう。

井上哲次郎も，第三版にあたる『英獨佛和 哲學字彙』の Preface において，初版・再版をふり返って，

This difficult task I undertook with Mr. Wadagaki, Mr. Kōdera, Mr. Ariga and others, publishing the result as a “Dictionary of Philosophical Terms” (哲學字彙) in 1881. In 1884 a second edition revised and enlarged was brought out by myself in conjunction with Mr. Ariga, the task of seeing the work through the press having chiefly fallen upon Mr. Ariga, as I, in the meantime, had gone to Germany.

と述べている。したがって、『哲學字彙』初版の編者は，井上哲次郎，和田垣謙三，国府寺新作，有賀長雄の四人であり，その他にも協力者 (others) がいたようである。そして，四人の中の代表者が井上哲次郎であったといえよう。

このうち，井上・和田垣・有賀の三名は人名辞典にその名が見えるが，内容にいくちがいもあるので，『大人名辞典』（平凡社・昭和28）と『東京帝國大學五十年史』（東京帝國大學・昭和7）によって簡単に紹介しておこう。

井上哲次郎は 安政二年筑前（福岡県）太宰府に医師富田俊達（『日本近代文学大事典』には船越俊達とある）の三男として生まれ井上鉄英の養子となった。幼時中村徳山に漢学を学び，長崎広運館に入った。明治八年東京開成学校，十年東京大学に入り十三年哲学政治学及理財学科を卒業した。十四年杉浦重剛等と『東洋学芸雑誌』を発刊，十五年文部省御用掛から東京大学助教授に任ぜられ，古典講習科乙部で史学および東洋哲学史を講じた。十七年ドイツに留学し，二十三年帝国大学文科大学教授となる。のち東京帝国大学文科大学長，貴族院議員，帝国学士院会員，哲学会会長などをつとめた。昭和十九年没。文学博士。

業績として有名なのは，明治十五年八月に刊行した外山正一，矢田部良吉

と共著の『新体詩抄』と、ドイツ哲学とくにカントとショーペンハウアーを移植したこと、西洋哲学の方法によって東洋哲学の解明を試みたこと、教育勅語の注釈書『勅語衍義』を著わしその哲学的基礎づけを与えたことなどである。

和田垣謙三は、萬延元年但馬(兵庫県)豊岡藩士和田垣讓の二男として生まれた。藩儒久保田精一に漢学、菊地武文に洋学を学び、明治六年開成学校の獨語科に入学、十三年東京大学文学部哲学政治学及理財学科を卒業した。十四年イギリスに留学し、ロンドン、キングス・カレッジおよびケンブリッジ大学で理財学を学び、十六年ベルリン大学に学び帰国、文部省准奏任御用掛兼東京大学文学部講師、十八年法学部兼勤となる。十九年法科大学教授として理財学を講じ、三十一年東京帝国大学農科大学教授となり、農政学・経済学を講じた。奇行と洒落で知られ、『吐雲録』『兎糞録』などの随筆集のほか、英和辞典、和英辞典、経済・法制の教科書などの著がある。大正八年没。法学博士。

有賀長雄は、萬延元年大阪西成郡川崎村に歌人として知られる有賀長隣の長男として生まれた。明治九年大阪開成学校から東京大学予備門(『大人名辞典』も『日本近代文学大事典』も明治九年であるが、『東京帝国大学五十年史』によると、明治十年四月から東京大学予備門で、それ以前は東京英語学校である)に転じた。十五年東京大学文学部哲学科を卒業、東京大学御用掛文学部準助教授となり『日本社会史』を編纂した。十七年元老院書記官、十九年ヨーロッパに留学、ベルリン大学でヨーロッパ文明史および心理学を学び、オーストリアで国法学を学ぶ。二十年帰国、枢密院書記官となり総理大臣秘書官をかねた。のち、東京帝国大学講師(国史第三講座)、陸軍大学教授、早稲田大学教授を歴任した。また、大正二年には袁世凱の大総統法律顧問になった。法律・歴史に関する著書が多数あるほか、『文学叢書第一冊 文学論』(明治18)もある。大正十年没。法学博士、文学博士。

国府寺新作(未詳)

3. 成立

編纂の目的は、第三版にあたる『^{佛蘭}哲学字彙』の Preface に井上哲次郎が明確に記している。すなわち、

As the occidental philosophy was for the first time introduced into Japan not long after the Restoration, it has been very difficult for us to find exact equivalents in our own language for the technical terms employed in it. One and the same term had sometimes been translated by various expressions which might be considered quite distinct in their signification by readers unacquainted with original. It was, therefore, very necessary to settle finally the Japanese equivalents of the European technical terms.

このように、明治維新後に移入された新しい概念は、それを日本語に訳すにあたって、一つの術語に多様な訳 (various expressions) が生まれ、訳語を統一し定着させることが必要であった。この要求に応ずるため本書は編纂された。これは、明治十五年五月、東京大学理学部教授菊地大麓が「学術上ノ訳語ヲ一定スル論」を『東洋学芸雑誌』(第8号)に発表し、学術上の訳語の統一を各学会員に呼びかけたのと目的を同じくし、これに先立つこと一年であった。

編纂の方法は、「緒言」によると「^{フレイミング}弗列冥氏哲学字典」によって稿を起したが、「近世之字」すなわち近世の哲学用語が不足していたため、井上・和田垣・国府寺・有賀が徧く諸書を搜索して用語を増補したという。弗列冥は英国人 William Fleming で、その哲学字典は *The Vocabulary of Philosophy, Mental, Moral, and Metaphysical, with Quotations and References; For the Use of Students* である。初版は 1856 (安政3) 年刊で、永嶋大典氏は二版 (1858・安政5年)、三版 (1876・明治9年)、四版 (1887・明治20年) と、二版をもとにしたアメリカ版 (1860・万延元年) が東京大学総合図書館に所蔵されていることを紹介された。『哲学字彙』と時期的に近いフ

レミングの三版はオクタボ版 540 ページで、術語に詳しい解説を加えたもので、『哲學字彙』が術語に訳語を与えただけであるのとは、形式的に全く異なっている。術語の見出しが Fleming にどの程度よっているか、井上哲次郎氏が「近世之字」をどのくらい増補したのか、今後の課題である。(補注)なお、『哲學字彙』の術語見出し語数は1951語で、その内訳は次の通りである。

A(167語), B(36語), C(206語), D(127語), E(116語), F(58語),
G(38語), H(43語), I(116語), J(26語), K(25語), L(52語),
M(103語), N(54語), O(41語), P(252語), Q(13語), R(96語),
S(204語), T(97語), U(31語), V(27語), W(20語), X(0語),
Y(0語), Z(3語)。(注1)

訳語については「緒言」に、

先輩之譯字中妥當者、盡採而收之、其他新下譯字者、佩文韻府淵鑑類函五車韻瑞等之外、博參考儒佛諸書而定、今不盡引證、獨其意義艱深者、擬入註脚、以便童蒙、

と記されており、先輩の訳字(注2)で妥當なものはことごとく採用し、新たに訳字を下すものは『佩文韻府』、『淵鑑類函』、『五車韻瑞』などのほか、儒佛の諸書を参考にして定めたという。ただ、その引証は意義の艱深なるものだけ註脚の形式で加えたが、これは童蒙のためであると述べている。この註脚は漢文で記されており、すべてが引証のためではないが、註脚のついた訳語は次の63語である。

絶対 (Absolute), 形而上 (Abstract), 無宇宙論 (Acosmism), 朝宗 (Afflux), 不可思議論 (Agnosticism), 滑疑 (Ambiguous), 先天 (A-priori), 後天 (Aposteriori), 達徳論 (Aretolog), 轉化 (Becoming), 太初 (Beginning), 範疇 (Category), 萬化 (Change), 俱有 (Coexistence), 錯繆 (Complex), 凝聚 (Concentration), 形而下 (Concrete), 會同 (Conflux), 演繹法 (Deduction), 自然神教 (Deism), 達道論 (Deontology), 度設得教 (Docetism), 以彼阿尼教 (Ebionitism), 兼愛主義 (Egoistic altruism), 解脫 (Emancipation), 倫理学 (Ethics),

化醇 (Evolution), 萬有成立 (Existence), 諾斯土教 (Gnosticism), 赤脚仙人 (Gymnosophist), 彪雜 (Heterogeneity), 純一 (Homogeneity), 唯心論 (Idealism), 歸納法 (Induction), 虛靈 (Intelligence), 邁實教 (Magianism), 摩訶衍 (Mahayana), 唯物論 (Materialism), 形而上学 (Metaphysics), 輪廻 (Metempsychosis), 化裁 (Modification), 唯理論 (Naturalism), 性 (Human nature), 涅槃 (Nirvana), 泰一 (One), 全成教 (Perfectionism), 真如 (Reality), 相對 (Relativity), 革命 (Revolution), 鍊金方士 (Roscrucians), 元形 (Rudiment), 至人 (Sage), 三昧 (Samadhi), 沈冥 (Seclusion), 太極 (Substance), 張本 (Suggestion), 超理論 (Supranaturalism), 化体 (Transubstantiation), 三位一體 (Trinity), 無碍 (Unconditioned), 冥合 (Unification), 盜夸 (Vanity), 無限觀 (Infinite vision)。

なお、哲学以外の分野の訳語には注記があり、「緒言」には、

字義往々從_二學科_一而異故附_二括弧_一以分別。一目瞭然易_レ會者。及_二哲學之外不_レ用者_一并不_レ附_二括弧_一其例如_レ左。

(倫)	倫理學	(心)	心理學
(論)	論法	(世)	世態學
(生)	生物學	(數)	數學
(物)	物理學	(財)	理財學
(宗)	宗教	(法)	法理學
(政)	政理學		

とあり、学科別に固有の訳語を明示している。その数は、倫理学 (6 語), 心理学 (9 語), 論法 (82 語), 世態学 (22 語), 生物学 (41 語), 数学 (15 語), 物理学 (20 語), 理財学 (56 語), 宗教 (22 語), 法理学 (34 語), 政理学 (24 語) の総計 341 語である。なお、世態学は今日の社会学であり、理財学は今の経済学である。

また、付録に J. G. Bridgman による「清国音符」(Chinese Symphonious Characters) がある。

4. 諸版

『哲學字彙』初版は東京大学印行後二年にして残部がなくなったため、有賀長雄は井上哲次郎と相談の上、誤謬を正し、不足を補って明治十七年、『改訂増補 哲學字彙』を東洋館から刊行した。この改訂増補は井上と有賀が行ったが、印刷の仕事は有賀長雄が一人で担当した。和田垣、国府寺は海外にあり、井上もまたドイツに留学したからである。この事情を有賀は「緒言」で次のように記している。

哲學字彙余等同窓所撰而文學士井上君之力居多、東京大學印行二閱年而印本全盡矣、爾來哲學日盛非復昔日之比、於是與井上君謀、正誤謬補不足經大學允准而再上梓、會和田垣、國府寺二文學士赴於海外、尋井上君亦有獨逸之行、故至改訂印刷之業、長雄專任其實、井上と有賀が行った改訂は、たとえば、

(1) 見出し語を増補したもの

- (例) Abbreviation 約言, 減筆
 Aberration 差錯,
 Abnormal 逆定規, 不順當
 Bishop 教頭
 Blame 規諫, 非議

(2) 訳語だけを増補したもの (下線部分)

- (例) Activity 活動, 輕快, 活動力
 Administration 管理(政), 内政, 行政
 Botany 本草学, 植物学
 Character 品格, 性質, 行状, 資性
 Freedom 自由, 自主

(3) 訳語を変更したもの (→が変更したもの)

- (例) Absolutism 專制政治 →專制主義
 Ideal 理想 →理想的, 觀念的

Common law	慣用法	→普通法
Love	愛情	→親愛, 戀情
Privilege	特許	→特權

(4) 訳語の漢字表記を修整・変更したもの

(例) Archaeous	體形	→体形
Balance	衡平	→平衡
Egoism	自利主義	→自理主義
Manifestation	表像	→表象
Retic	修辭	→修辭

(5) 見出しを削除したもの

(例) Angelogy	天使論
Choice	撰擇
Presentative	表現的

などがある。削除したものは上記の3語がすべてであるが、増補した見出しは759語で、『^{改訂}増補 哲學字彙』の見出し語総数2723語の27.9パーセントにあたり、かなり大規模な増補であったといつてよいであろう。

また、付録として、「清国音符」のほかに、学友の生駒に依頼して英国の伝教師愛啼兒 (E. J. Eitel) の『支那佛法要領』から抜抄して「梵漢対訳佛法語彙」を加えた。

それから二十八年たって、明治も末の明治四十五年一月に、三版にあたる『^{英獨}佛和 哲學字彙』が刊行された。これは井上哲次郎、元良勇次郎、^{もとら}中島力造の三人の共著になるもので、丸善株式会社から出版された。そのPrefaceにおいて井上哲次郎は、二版との関係を次のように記している。

This second edition, however, has been for long time out of print; moreover it is too defective to satisfy modern requirement, philosophical studies having made much progress in our country since its publication. I have, therefore, for several years past been engaged with Professor Motora and Nakashima in compiling

what is practically a new “Dictionary of Philosophical Terms” rather than a third edition of the previous one from which it differs to a very great extent. This dictionary which we are now publishing, though we have done our best to make it complete, is by no means fully satisfactory, but my perhaps suffice for practical needs at the present time.

このように三版というよりも新版 (a new “Dictionary of Philosophical Terms”) であると述べているが、ドイツ語見出しの大幅な増補をはじめ異なる点もあるが、初版・二版・三版に共通の見出し語を比較してみると、たとえば、

- Ability [初版] 力量、
 [二版] 力量
 [三版] (Lat, *habilitas*, Fr. *habileté*, Ger. *Fähigkeit*) 才能, 力量, 堪能性
- Good [初版] 善、
 [二版] 善
 [三版] (Ger. *gut*, Fr. *bien*) 善, 善良

のように、他国語を注記し、訳語を増補してはいるが、基本的には、初版、二版の延長線上にあることは疑えないところである。そして、この『英和哲學字彙』はさらに大正十年に版を重ねている。

以下、初版・二版・三版の書誌について、簡単に記しておく。／は改行／はそのページの終りを示す。

〈型・装訂〉

- 初版 タテ 17.8 cm × ヨコ 11.2 cm 背・耳革製・黒布装
 二版 タテ 18.5 cm × ヨコ 11.7 cm 背・耳革製・黒布装
 三版 タテ 22.2 cm × ヨコ 14.8 cm 背革製・緑布装

〈表表紙〉

- 初版 Dictionary of Philosophy (金文字)

二版 (書名なし)

三版 DICTIONARY/OF/PHILOSOPHICAL TERMS/T. Inouye,
Y.Motora,/R.Nakashima,/MARUZENKABUSHIKI-KAISHA//
(白文字)

〈背表紙〉

初版 (書名なし)

二版 改正 哲學字彙
增補

井上哲次郎
有賀長雄

三版 英獨 哲學字彙
佛和

文學博士 井上哲次郎
文學博士 元良勇次郎 共著
文學博士 中島力造

〈扉〉

初版 明治十四年四月／東京大學三學部印行／哲學字彙 全／附清國音
符

二版 明治十七年五月再版／東京大學三學部御原版／文學士 井上哲次郎 增
補／改訂 哲學字彙 全／附 梵漢對譯佛法語彙／東洋館發兌
增補

三版 文學博士 井上哲次郎／文學博士 元良勇次郎／文學博士 中島
力造／共著／英獨 哲學字彙／東京 丸善株式會社

(英文扉) DICTIONARY/OF/ENGLISH, GERMAN, AND
FRENCH/PHILOSOPHICAL TERMS/WITH/JAPANESE EQUI-
VALENTS/BY/Tetsujiro Inouye,/Yujiro Motora,/Rikizo Na-
kashima/Professors of philosophy in the Imperial/University
of Tokyo/TOKYO/The Maruzen Kabushiki-Kaisha/1912

〈緒言の識語〉

初版 明治十四年四月 文學士井上哲次郎識

二版 明治十七年二月 文學士有賀長雄識(初版の緒言もある)

三版 TETSUJIRO INOUE./Tokyo, December 15 th, 1911. //
(PREFACE.)

〈本文〉

初版 A/Dictionary of Philosophy./—/A/Abduction 不明推測式

(論), ~Zoonomia 生命學 (p.1~99) //

二版 A/Dictionary of Philosophy./—/A/Abbreviation 約言, 減筆
~Zoonomia 生命學 (p.1~136) //

三版 A DICTIONARY OF ENGLISH, GERMAN, AND/FRENCH
PHILOSOPHICAL TERMS/哲學字彙/—/A./A. 全稱是定命題
之記號, ~Zygote. 生殖癒合體 (生), (p.1~178) //SUPPLE-
MENT./—/A. Abart. 次種~Zwischenzustand: see Intermedi-
ate state. (p.179~205) //

〈付録〉

初版 Chinese Symphonious Characters./From Notitia Linguae
Sinicoe Translated/by J.G. Bridgman. (p.101~127) //

二版 Appendix. A./梵漢對譯佛法語彙/A Sanskrit Chinese Diction-
ary:/From the Hand-book of Chinese Buddhism./By Rev.
E.J. Eitel. (Prepared by Sh. Ikoma) (p.137~255) //

Appendix B./清國音符/Chinese Symphonious Characters./
From Notitia Linguae Sinicoe Translated/by J. G. Bridg-
man. (p.257~283) //

三版 APPENDIX/星座名(p.207~208)/地史系統通覽(p.208~209) //

〈正誤表〉

初版 あり

二版 なし

三版 なし

〈奥付〉

初版 なし

二版 明治十六年十二月東京大學願濟/明治十七年四月版權免許/同年
五月出板/増補并出版人/福岡縣士族/井上哲次郎/東京麴町區
富士見町五丁目六番地/大坂府平民/有賀長雄/東京神田區錦町
三丁目五番地/發行書肆 東洋館書店/東京神田區小川町十番地

／賣捌 丸家善七／東京日本橋區通三丁目十四番地／賣捌 叢書閣 東京京橋區南傳馬町一丁目十番地／

三版 明治四十四年十二月三十日印刷／明治四十五年一月四日發行／不許複製／正價金壹圓七拾錢／著作者／井上哲次郎／元良勇次郎／中島力造／發行者／丸善株式會社／東京市日本橋區通三丁目四十五番地／代表者 專務取締役 小柳津要人／印刷者／野村宗十郎／東京市京橋區築地二丁目十七番地／印刷所／株式會社東京築地活版製造所／東京市京橋區築地二丁目十七番地／發行所／東京市日本橋區通三丁目／丸善株式會社／郵便振替貯金口座東京第五番／大阪市心齋橋筋博勞町／丸善 株式會社大阪支店／郵便振替貯金口座大阪第七四番／京都市下京區三條通り麩屋町西入／丸善 株式會社京都支店／郵便振替貯金口座大阪一七三番／

なお、三版にあたる『英獨佛和哲學字彙』は大正十年に再版を出した。本文に相違はないので、相違のあるところだけ記しておく。

〈表表紙〉 DICTIONARY/OF/PHILOSOPHICAL TERMS/T. Inouye, Y. Matora, / R. Nakashima. /MARUZEN COMPANY LTD//

〈扉〉 (英文扉の発行所名が変わる) TOKYO/MARUZEN COMPANY, LTD/1912/

〈奥付〉 明治四十四年十二月三十日印刷／明治四十五年一月四日發行／大正十年四月十五日再版印刷／大正十年四月十八日再版發行／不許複製／定價金貳圓五拾錢 郵税 内地金拾八錢
滿鮮金四拾五錢／著作者／井上哲次郎／元良勇次郎／中島力造／發行者／丸善株式會社／東京市日本橋區通三丁目十四，十五番地／代表者 取締役 山崎信興／印刷者／大久保秀次郎／東京府北豊島郡巢鴨町三丁目十番地／印刷所／株式會社東京築地活版製造所／東京市京橋區築地二丁目十七番地／發行所／東京市日本橋區通三丁目／(郵便振替貯金口座東京第五番)／丸善株式會社／(以下支店省略)／

なお、諸本の調査にあたっては、

- 初版 国立国会図書館蔵本，東京大学総合図書館蔵本，九州大学文学部
筑紫文庫蔵本，松村明氏蔵本，惣郷正明氏蔵本
- 二版 東京大学総合図書館蔵本，国立国語研究所蔵本，森岡健二氏蔵
本，蜂谷清人氏蔵本，飛田良文蔵本
- 三版 国立国会図書館蔵本，飛田良文蔵本，（以上明治45年版），蜂谷清
人氏蔵本（大正10年版）

を参照した。借用・借覧を許された所蔵機関と所蔵者に厚く御礼申しあげる。

- (注1) 術語見出しの数え方は，大見出しも，複合語の小見出しも区別していない。また，複合語では，Mental philosophy, Mental science, Polar logicが二個所に出てくるが，重複して数えてある。また，Rightも二回出ているが二語として数えてある。
- (注2) 訳字と訳語は視点を異にした名称であるが，同義に使用することもある。訳字は原語の意味あるいは発音を漢字で書き表わしたものである。訳語は和語で示すのが本来であったが，幕末ごろから漢語でも示し，一方，訳字を音読するようになって訳字と訳語の区別がなくなった。くわしくは，飛田良文「訳語研究の視点」（『国語学』115集・昭和53年12月）を参照されたい。

(補注) 校正が五校の段階になって，東京大学大学院生の清水康行君の好意で，Flemingの哲學字典（二版・三版）を見ることができた。『哲學字彙』初版がどの程度FlemingのThe Vocabulary of Philosophy, Mental, Moral, and Metaphysicalに準拠しているか，また，井上哲次郎ら編者が増補したという見出し語，すなわち「近世之字」はどの程度のものであったか，およその見通しを得たいと思い，見出し語数を数えてみた。その結果は次ページの見出し語数対照表の通りである。Flemingの二版と三版はゴチック体で印刷された大見出しの部分の数え，『哲學字彙』初版は，大見出しと一字下げで印刷されている複合語の小見出しに分けて数えた。すると見出し語数対照表に見られるように，Flemingの二版と三版の差は少なく，三版と『哲學字彙』初版との間の差が著しい。そこで，機械的に比較するとAからZまで，いずれの項目でも大幅な差がみられ，全体としてみると，大見出しでは『哲學字彙』の1,562語がFleming三版の755語をすべて採録したと仮定すると，807語を増補したことになる。しかし，すべてを採録したとは考えられないので，「B」の部について具体的に検討してみると，次のようになる。

見出し語数対照表

	Fleming 『哲學字典』		『哲學字彙』初版		
	2版	3版	大見出し	小見出し	計
A	90	94	150	17	167
B	8	9	33	3	36
C	79	79	162	44	206
D	39	42	116	11	127
E	54	56	102	14	116
F	21	21	38	20	58
G	12	12	31	7	38
H	17	1	42	1	43
I	62	63	107	9	116
J	3	3	7	19	26
K	2	2	6	19	25
L	10	11	28	24	52
M	40	40	95	8	103
N	24	26	40	14	54
O	23	25	41	0	41
P	71	78	180	72	252
Q	5	6	9	4	13
R	34	36	85	11	96
S	71	78	159	45	204
T	33	33	58	39	97
U	9	9	28	3	31
V	6	6	25	2	27
W	7	7	17	3	20
X	0	0	0	0	0
Y	0	0	0	0	0
Z	1	1	3	0	3
計	721	755	1,562	389	1951

[Fleming の二版の大見出し] 8 語

BEAUTY, BEING, BELIEF, BENEVOLENCE, BLASPHEMY,
BODY, BONUM, BROCARD.

[Fleming の三版の大見出し] 9 語

BEAUTY, BEING, BELIEF, BENEVOLENCE, BIOLOGY, BLAS-
PHEMY, BODY, BONUM, BROCARD.

[『哲學字彙』初版の大見出し] 33 語

Bad, Balance, Baptism, Barter, Beautiful, Becoming, Begriff,
Beginning, Behaviour, Being, Belief, Beneficence, Benevolence, Bias,
Bible, Bigamy, Bigotry, Biogeny, Biology, Blasphemy, Blastema,
Blastogeny, Blastophyly, Body, Botany, Brahma, Brahminism, Brain,
Brassage, Brocard, Buddhism, Bullion, Bureaucracy.

以上のように大見出しを比較してみると、Fleming の二版と三版とは、ほぼ
同じで一語 BIOLOGY が増補されているだけである。Fleming の三版と『哲
學字彙』初版と比べてみると、BEAUTY, BONUM 二語が採録されず、他
の七語が採録されている。したがって、井上哲次郎らが増補した語は 26 語
となる。

小見出しを比べてみると、

[Fleming の二版の小見出し (三版も同じ)]

Bonum Morale, Bonum Summum.

[『哲學字彙』初版の小見出し]

Absolute being, Rational being, Sentient being.

のように、全く異なっている。しかし、『哲學字彙』の小見出しの中には、
Fleming の哲學字典の説明文の中から採録したとみられるものもある。した
がって、『哲學字彙』初版の見出しは、Fleming の哲學字典に準拠して稿を
起したが、増補した「近世之字」すなわち近世の哲學用語は、かなり大規模
なもので、大見出しの場合約半数が増補されたものと考えてよさそうであ
る。詳細は今後の課題としたい。

なお、参考までに、Fleming の二版と三版の扉の文字を記しておく。二版
は Glasgow 大学教授 William Fleming 自身が改訂増補したものであり、三
版は Fleming の死後、Edinburgh 大学教授 Henry Calderwood が校訂した
ものである。

[二版の扉]

THE/VOCABULARY OF PHILOSOPHY, MENTAL, MORAL, AND
METAPHYSICAL; /WITH/QUOTATIONS AND REFERENCES; /FOR THE

USE OF STUDENTS. /BY/WILLIAM FIEMING, D. D., /PROFESSOR
OF MORAL PHILOSOPHY IN THE UNIVERSITY OF GLASGOW. /
Second Edition, Revised and Enlarged. / LONDON AND GLASGOW: /
RICHARD GRIFFIN AND COMPANY, /PUBLISHERS TO THE UNI-
VERSITY OF GLASGOW. / 1858. //

[三版の扉]

THE /VOCABULARY OF PHILOSOPHY, /MENTAL, MORAL, AND
METAPHYSICAL; /WITH/QUOTATIONS AND REFERENCES/FOR
THE USE OF STUDENTS. /BY/WILLIAM FLEMING, D. D., /LATE
PROFESSOR OF MORAL PHILOSOPHY IN THE UNIVERSITY OF
GLASGOW. /Third Edition. /EDITED BY HENRY CALDERWOOD,
LL. D. /PROFESSOR OF MORAL PHILOSOPHY IN THE UNIVER-
SITY /OF EDINBURGH. /—/LONDON: / CHARLES GRIFFIN AND
COMPANY. / STATIONERS' HALL COURT. / 1876. / (All rights
reserved.) //